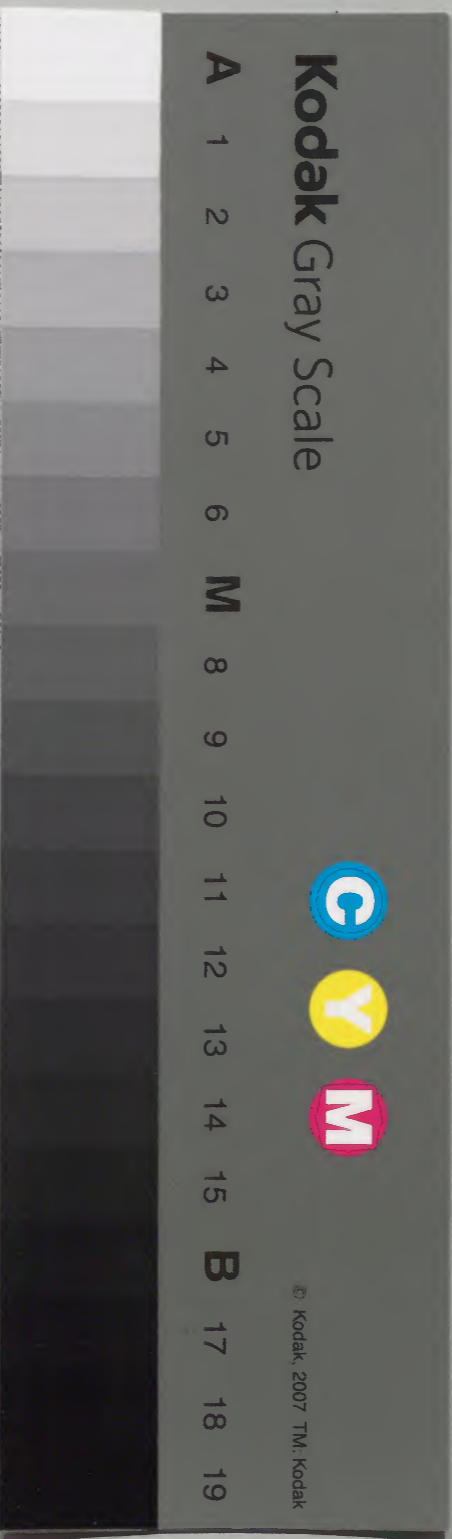
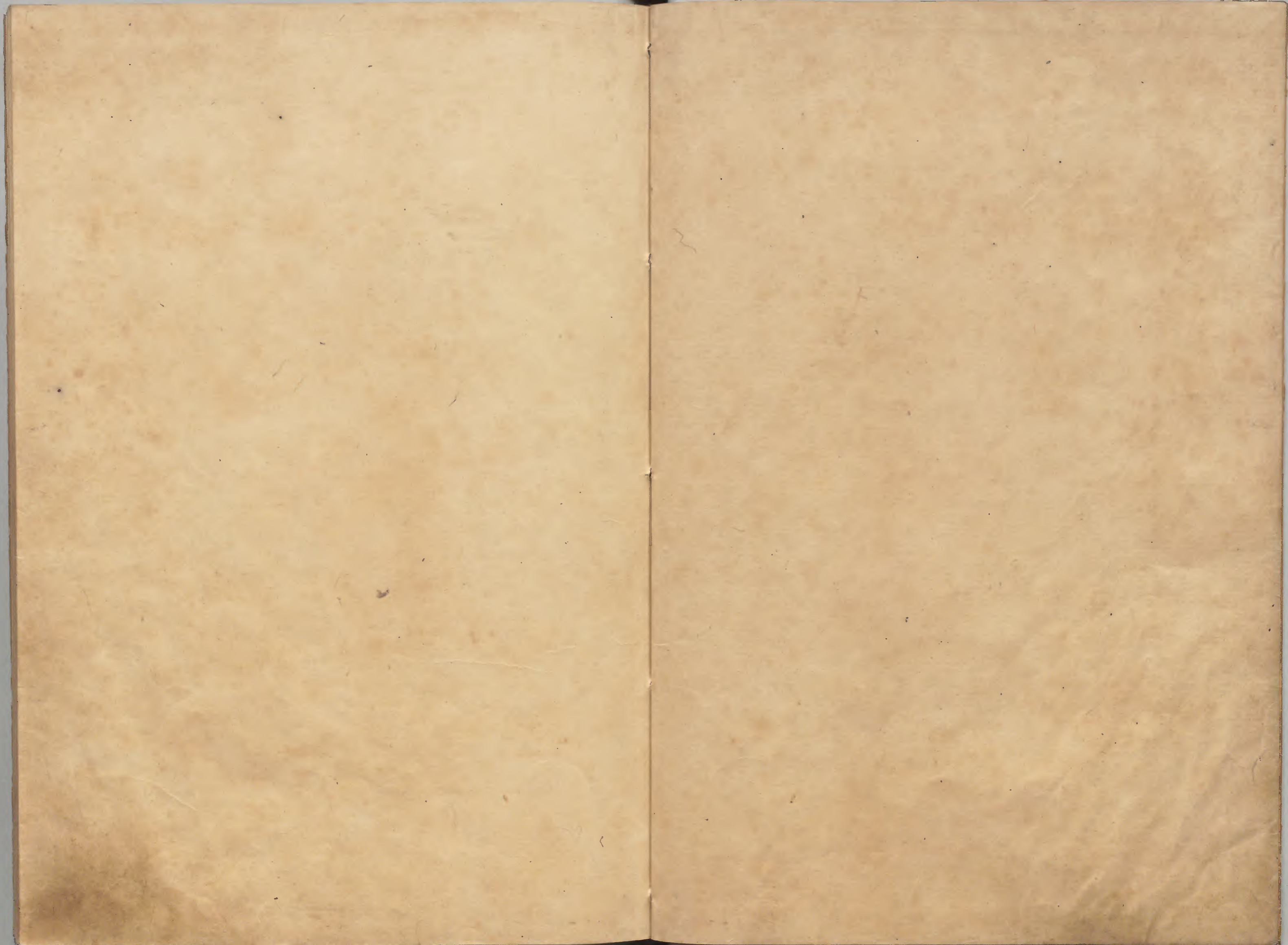


寛永諸家譜

平氏十九冊之内
良支流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186(72)
函號	網 76 1





中根

店田

板橋

永井

長井

長嶋

永尾

高山

三田

酒井

寛永諸家系圖傳

淺草文庫

平氏

良文流

中根

正行

平光清

生國冬河

清康君

行久

中老麻

正信

新田重光討 生國同家
廣忠卿とよひ

東照大権現
老成と称せし侍らるる大須賀
上郎重光横須賀の城よりあり討
了正信とよひ嫡子忠元松平三右
中根日野天野合次郎河上十兵衛

原田重光討 加勢
中根重光討 小原
武田重光討 武田
永禄十二年小原

忠元

平重光討
中務重光討 松平
新田重光討 大元 鉤命とよひ

中務一しゅう 属一しゅう 小濠城下せうがうじょうか 制法せいぽう
とけいささくらまほかろ城小とひく
死と

正重まさしげ

侍七郎 生國三河

ふとくぬ信康主のぶやす 一い けいさけいさ

後のち

大権現おほいけんげん 一い けいさけいさ 一い けいさけいさ

安長三年伏見乃城番小ありく
死と歳軍十二 法石清月せいかげつ

正成まさなり

侍七郎 生小春江なほはるえ

後止位下ごとど 一い 叙一しよ 大隅守おほむつし 仁徳にとく

安長四年

名瀬院殿なせいでん 一い 福ふく 一い 幸しらゆき 一い 幸しらゆき

同十九年大坂陣おさかじん 一い 陣じん

元和九年夏大坂沙陣ミダより勝を
かゝゆりく功ありけ河其切と感あきし
給ひく千石の地とく入たまふ
同二年より

將軍家よりけくくゆり給

正名

徳之節 生國武院

名徳院殿よりけくくゆり給

寛永二ニ年 名命なのみこととけくゆり給

後河大納言忠長ちかなが御よつてけくゆり給

將軍家よりけくくゆり給

同十七年より一石と歳五十五法名

法興ほうきょう

正名

徳之節 生國同家

將軍家よりけくくゆり給

正次

上巻末

生國同好

交長十九のより

名徳院殿よりつらくつらくまつわ大坂

沙陣より修葺

元和二年忠長卿よりつらくつらく

將軍家よりつらくつらくゆつた

寛永十五の修葺よりつらくつらく

正勝

半平

鴻七郎

生国武蔵

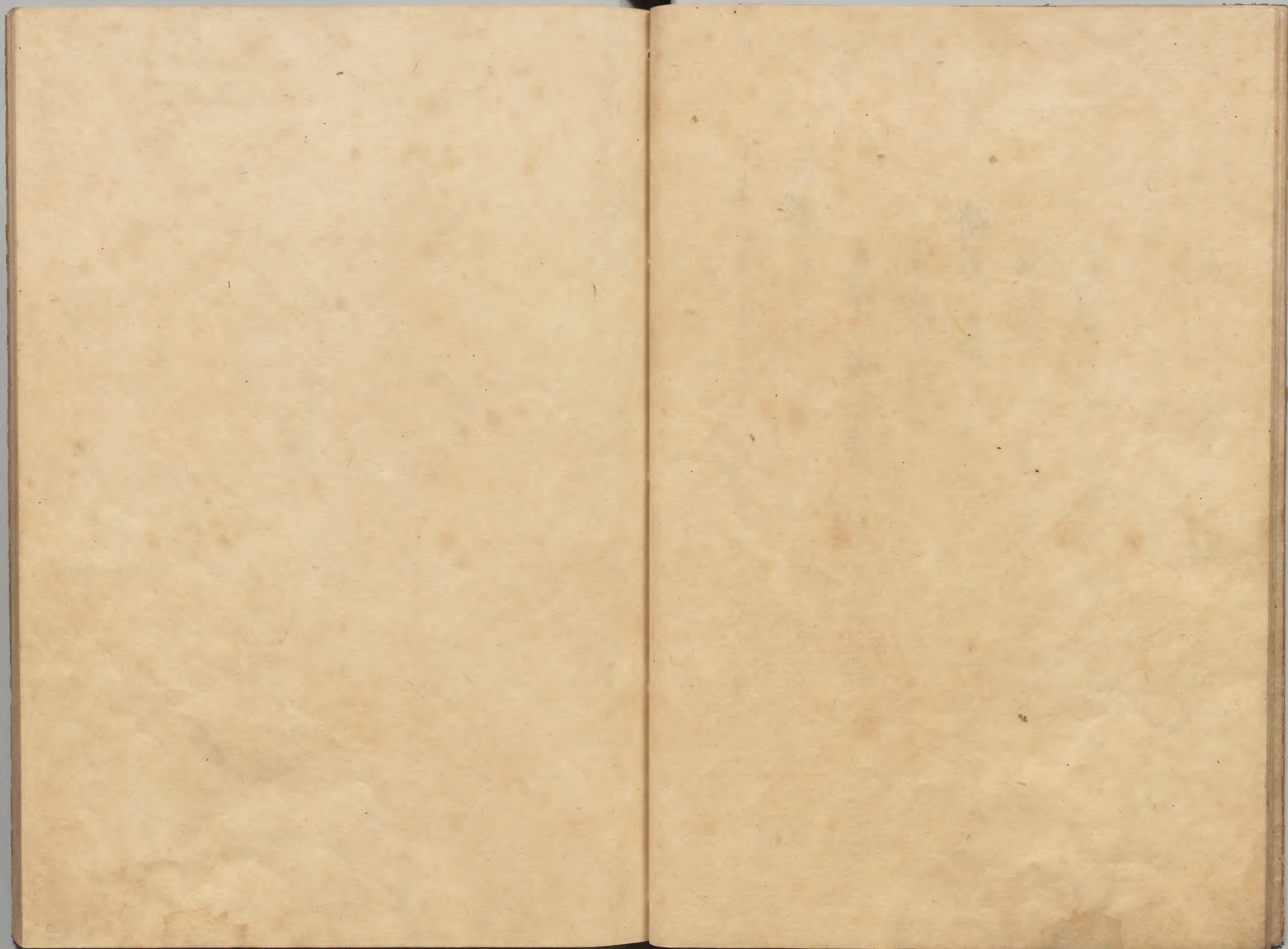
元和三年

將軍家よりつらくつらくつらくつらく

同七年より沙陣よりつらくつらく

寛永十年修葺をくくつらくつらく

家の紋 義高の図



中根

正後

仁彦 ひら 生國 ま 冬河 か

廣也 ひろ 歸 かへ 下 した 行 ゆ 子 こ 幸 しあ 丸 まる

正友

仁彦 ひら 生國 ま 同 どう 家 け

大指現とよび

名瀧院殿よりけりてそのまゝ

正成

著助 生國とよたけ

名瀧院殿よりけりてそのまゝ

元和八年十二月二十日より病いかり死

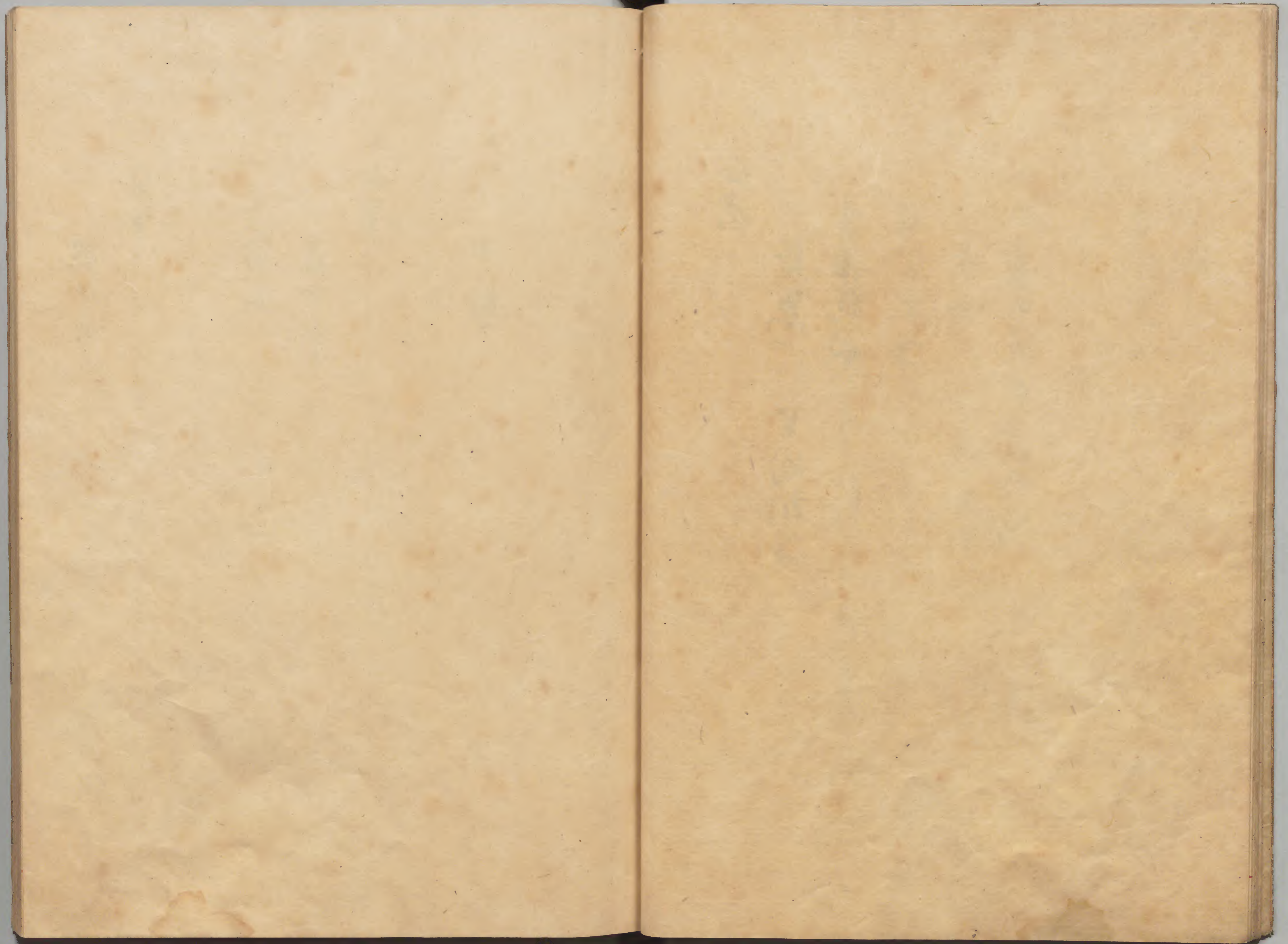
歳とし四十八

正次

仁事にこと 生國とよたけ相摸あき

名瀧院殿よりけりてそのまゝ

家の紋いざな表あは名のな図ず



中根

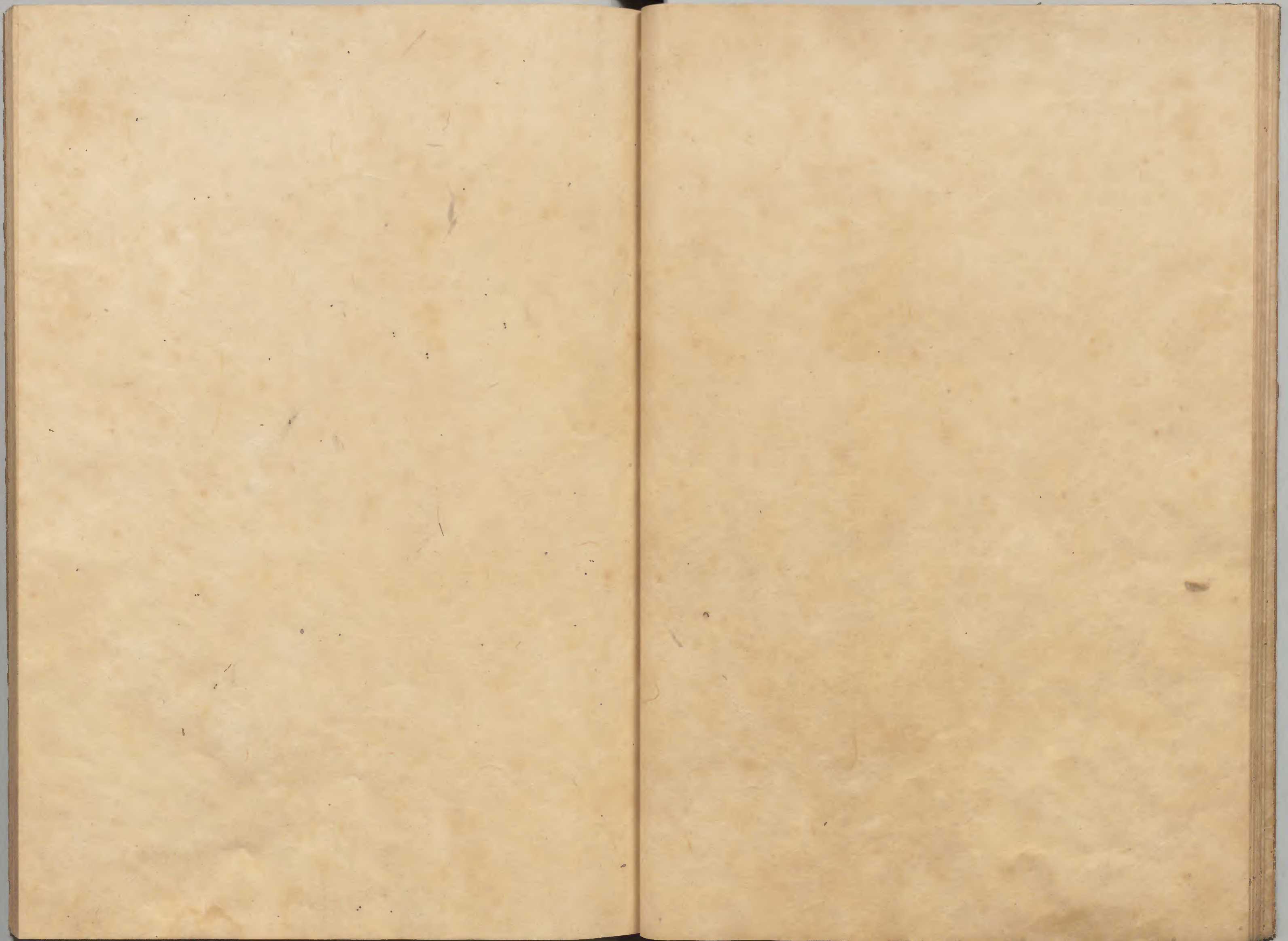
● 忠重

表四郎

大権現下
一
行
入
下
く
ま
り
紙

貞重

権六郎



中根

● 正利

七郎なな 生國い 卷河ま

大指現おほさしげ 了り 行ゆ 入い 入い 了り 申まう 上う 沙書さ 書か
たまふ今いま 了り 申まう 上う 沙書さ 書か

天正十二年六月二十五日あまのていじふにじふごにち 病い 死し

法は 名な 全ぜん 本ほん

正室

長門郡

生國同家

大檀院

安長九年十月五日

四十八 法名定春

正勝

長門郡

生國同家

安長十年 正勝十一歳

おと

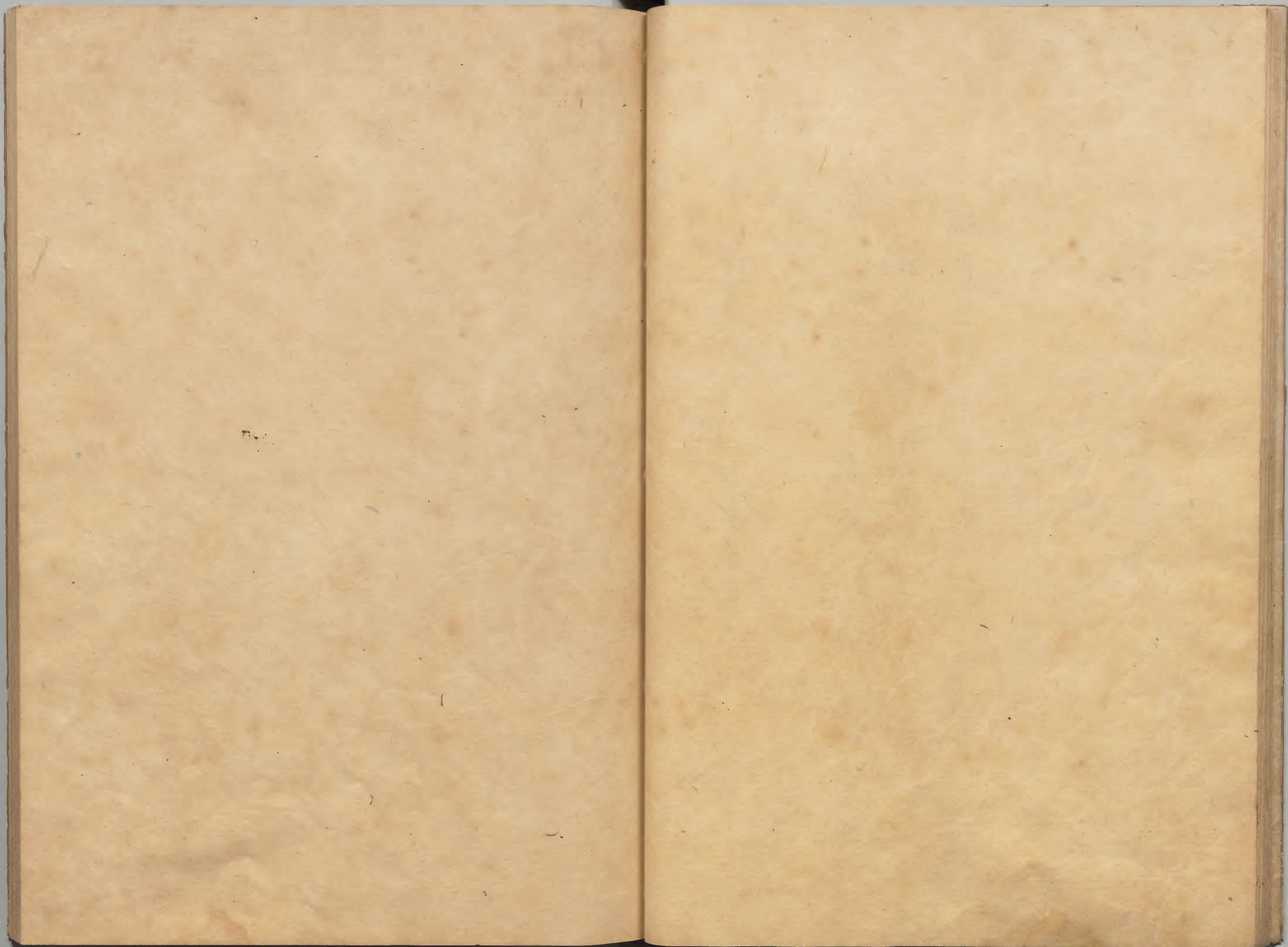
名徳院殿

好約命

將軍家

家の紋

義家の丸



中根

正名

平今史 生國卷

長安四年九月九日

七十九 法石道

正勝

八郎左衛門尉 生國同前

寛永三年五月廿九日

名德院殿くわいどう 様さま 様さま 様さま

正連

九郎左衛門尉 生國同前

寛永七年

名德院殿と申すは、まづり候
將軍家より、はるか、まはり候

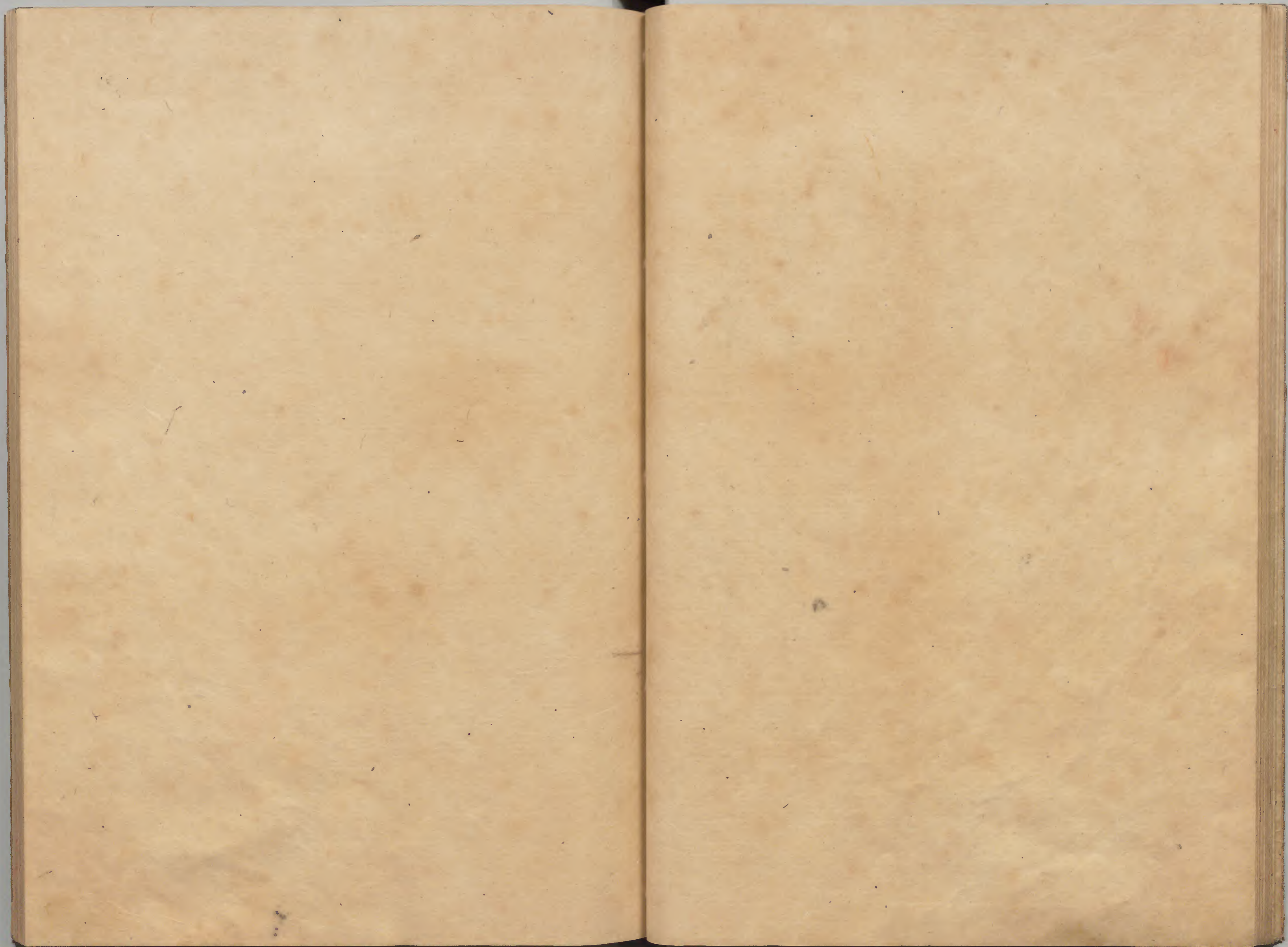
正信

六郎左衛門

寛永十一年

將軍家と申すは、まづり候

家乃紋丸の内よ、叢草



安信

石田

三太史 生國丹波

赤井公節

本村

安長五年十二月

大権現

安照

同六年 鈞命いづかのみこと 依波原よこはらの城番しろのかみと成なりと心こころ
大坂おおさかあ度あぢ沙陣さじん 名命なのみこと
いづかのみこと 二月ふたつきああううのの八十九やそひて
死しと

小倉こくら

生國なまくに 鞆たもと

安勝

安文やすぶん十年九月じゅうねんきゅうがつ伏見ふし見 大指おほさし現げんととねね 十六歳
同十二年どうじゅうにねん武列ぶれつ江戶えど 名徳なとく院いん殿のりととねね 大坂おほさか
あ度あぢのの沖陣おほしじん 修しゆと

三太さんた史し

生國なまくに 駿河しゆんが

寛永九年

將軍家名帳一ツ
二ツ
三ツ
四ツ
五ツ
六ツ
七ツ
八ツ
九ツ
十ツ

家名帳
根菊

● 忠康

信濃守

板橋

いふは忠康氏なり曾祖父信濃守
忠康小糸氏也一に久武列
板橋一に所とる一にうりて板橋
と号す

小糸氏庶子

忠政

氏初

天正十八年小田原没落のち

大権現より行方不明なまつあし護屋

伊陣より信長凱還のち病死

政重

与右衛門

大権現より

名瀬院殿より

寛永四年より病死

政那

与右衛門

元和七年より

名瀬院殿より

幕まきの紋もん竊つ丸のまる

永井ながい

石成いしなり

石成
武田たけだ信玄のぶ同勝かつ頼より了り了り
生國なまくに甲斐かい

石正いしただ

又上またかみ而なり 生國なまくに同どう家け

信玄とよび勝頼かつら一いつつつふふ甲列か渡わたり
落おちののちち

大指現おほさしげんと相あ一いつききくくままつつ甲斐かい信濃しんりゅう

の内うちよよととひひくく甲斐かい乃の沙さ朱しゆ平へいとと結むす

いいりり今いま一いつととひひくく西さい木きとと

小牧こまき小田こゝろ尔に奥おく列れつ 石渡いしわた屋や為な北きた陣じん

一いつつつ信しん

交まじりりとといいふふよよりり

名瀬院なせいん殿のり一いつつつ行ゆくく一いつつつ向むかひひとと志こころ回まわ

沙陣さじん再またよよ大坂おほさか南みなみ度たび沙陣さじん一いつつつ信しん
元和三年げんわさんねん一いつつつ死しとと歳とし五ご十じゅう八はち

名次なぢ

小坂おさかのの 生國なまくに同どう家け

安長十年やすながじゅうねん

名瀬院なせいん殿のり一いつつつ取と掲か一いつつつままつつりり

河部かべ海うみ中ちゆう忠ちゆう組ぐみ一いつつつ一いつつつ屋や一いつつつ大坂おほさか南みなみ度たび

陣じん一いつつつ信しん

元和八年大番の紐頭とれ
寛永元年より

將軍家よりけりてまつれ

同十九年三月十二日 御命下り

よりくは守居番とつとぬ地

とくもへたまよらりびり

同をあらうれ

右勝

七郎右衛門 生國武苑

寛永九年

將軍家紙取よりまつれ

同十五年よりけりてまつれ

右忠

全十郎 生國同家

寛永十七年より

將軍家よりけりてまつれ

しん

家の紋井樹

● 信盛

永井

先祖武列永井の一人也信盛
の父よりしりく之列よする

永井の 生國三河

廣也郷下 行久 一々まつれ

元龜三年 三月 廿日 一 死

八十三歳

安盛

安盛の 生國回

大権現... けん... せん...

信玄... 河の... 信玄... 河の...

奥津... 野村... 奥津... 野村...

久土... 收川... 久土... 收川...

同... 後... 同... 後...

傍... 系... 傍... 系...

しん

大権現... 安... 大権現... 安...

五... 改... 五... 改...

八... 十... 八... 十...

相... 係... 相... 係...

同... 証... 同... 証...

安... 盛... 安... 盛...

外... 五... 外... 五...

討於新太乃... 安部 栲津也
これを知り

長藤沙陣... 信を... 高名
あり

長久の陣... 信を安盛一番
池田右五郎... 首と討た二番

今村九郎... 高名と云ふこと
永井右近池田勝入... 首と云ふこと

了... 一番とれぬ

開乐沙入國の内

大権現の鉤命と云ふこと

名徳院敷... けい... 然る

可成激おち系故... 地所

後と秋景勝... 了

安長五年景勝改宗と合戦

河内野... 新無湯

齋伊豆守及び安盛... 大将

して三子傳人と相違奥列

福清の城を守りしに改宗これを
突て自力立万能騎を率て福清
の城をせしむ河太の口人の成合せ
軍兵をもとを知りて城外半里
斗りお強して敵味方入孔進して
かよ改宗の由縁味方ハ小勢なれど
子回百餘人討死し河太盛敵の
中へ馳入改宗の家より馬の首取
りて後軍兵とありけり城の中

引改宗も兵を引てかへれど
秀康郷の治りて越前小
糸江と秀康郷薨してはら入道
して京都してはとまると大坂
冬沙陣の内沙謀と桑原ひく
志しれども和談してはら
又京都してはら
翌年夏沙陣小幕下よ治り
並養せしめてはら宿先を

かきつら

名徳院殿より行へるまづり以鐘

をりし治せりて其後より力

十騎歩卒五十人と其の

以謀をりて其

寛永十一年十一月廿三日

死と九十八歳

心盛

孫七郎 生國駿河

平生病をちりて少くして

まづり

元和二年六月廿三日

死と三十四

某

清吉の半也

盛安 しやんあん

依在事 生國同好

寛永三年五月廿六日

將軍家より一湯より一湯より一湯より

同三年一月廿七日

家乃紋 九月廿七日 遠野 二 ちのぶののり

長井

正勝

孫右衛門

生國近江

と一十六年一死と

法名長臨新江

正次

勝右衛門

生國同前

元和元年七月より

大権現とよび

名徳院殿よりけりしとてまじりけり

四十六歳ありて死と 法名梅出淨意はなぐもくじやうい

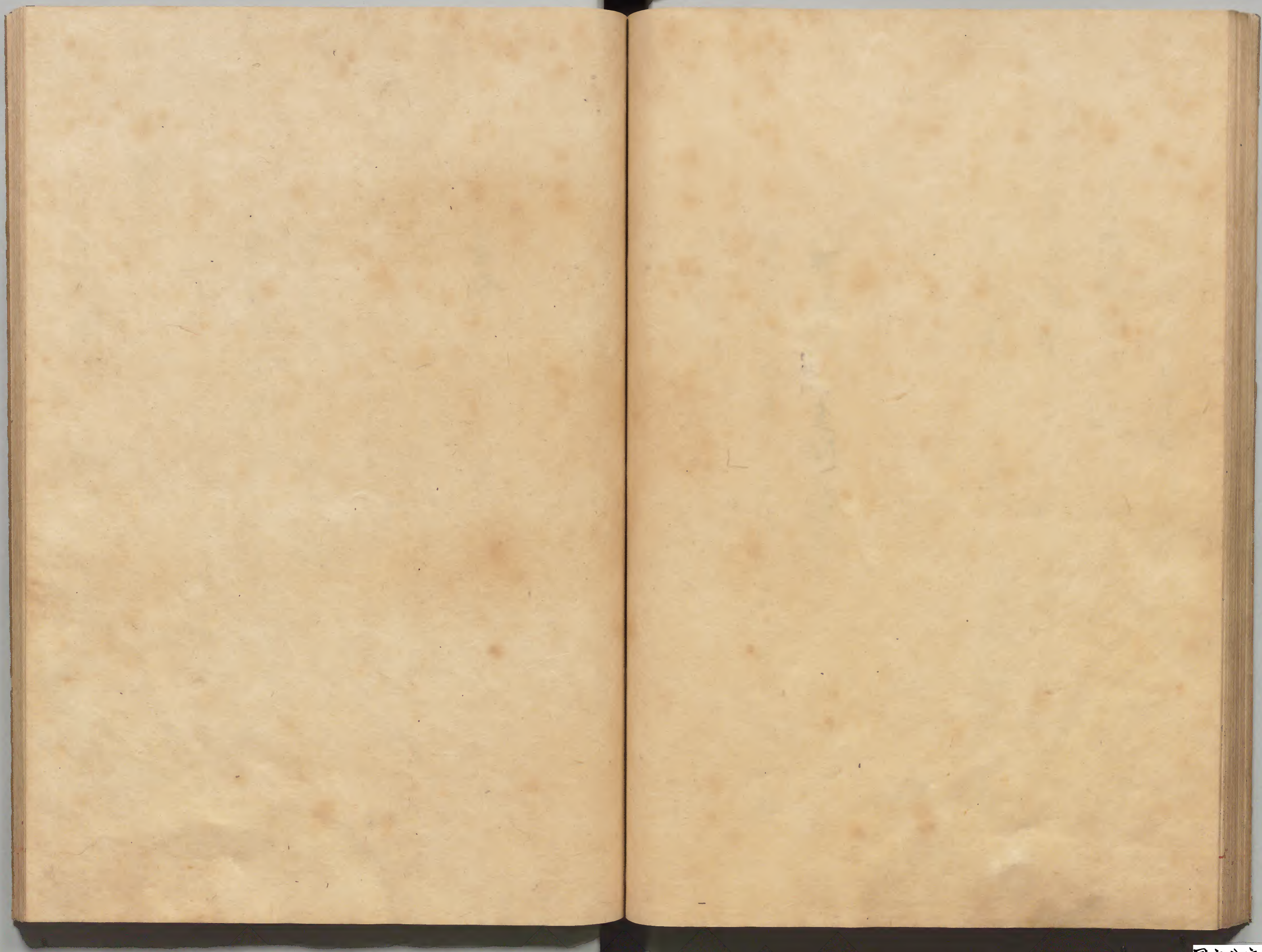
正成まさなり

左右妻の 生國持津

寛永十七年二月二十一日より大妻

とけむい

家の紋 十六のじやう



長井

正實

長井前守 生玉武義
武田信玄 勝頼

實久

右馬の尉

生國同家

天正十八年小田原沙陣より

大指現了り行へりそまつ

名護屋沙陣了り修其書

名護院殿了りつるまつ

盛實

清右史 生國上野

安長の手開ヶ原沙陣了り

大指現了りきりひりゆつ

同十一年歳之十五少く死

正實

清右史 生國駿河

大指現乃嚴命と水く父が遺跡之分

乃一と銘とのら

將軍家了りつるゆつわ松平

大隅了り属一沙書と行も

屢領地をくもるゆつ

寛永十年きんえいよりより未まなりなりととししれれ

家の紋いへ 鞆たもと二に徳とく打うち遠とほ

豊嶋 とよしま

● 重宗 しげむね

氏初 うぢはつ 少輔 せうぶ

生國 なまくに 氏義 うぢぎ

小條 こじょう 家 け 了 りょう

秀有 ひでゆり

市島 いちじま 東 とう

生國 なまくに 氏義 うぢぎ

信玄勝頼のり一し行ゆふ

天正十年勝頼滅亡ころ一して翌年つぎねん

らわ

大権現おほごんげん一しつつくくままつつれれ七十回

歳少く病死やま 法石室晴しやうせきむろはる

忠次ちゆうじ

作古妻さくこつま 生國甲斐なまくに

天正十九年

大権現おほごんげん用もち東あづま河か入い國くに乃の長なが川がわ之の

つつままつつれれ後ご

名徳院殿なとくゐんとといいふ

將軍家しやうぐん一しつつくくままつつれれ系けい

勝かつ重しゆう

十在妻じゆざい 生國同家なまくに

大権現おほごんげん一しつつくくままつつれれ

安長十八年やすなが

名瀧院殿とよび

將軍家了了了了了了了了

勝正かつまさ

檀越

生國武苑

寛永十年

將軍家了了福ちか了了了了了了

同十七年より大番おほばんとあり

五松ごそう

旭十郎

生國なまくに正ただ

寛永四年

名瀧院殿了了福了了了了了了

將軍家了了了了了了了了

暖次ぬるぢ

小十郎

生國なまくに正ただ

將軍家了了了了了了了了

と一海

家乃紋鳩つばき酸すい草くさ

● 正景

永尾

内膳正

生國上野

小條氏改

長正二年九月二十日

歳七十一 法名 苑 咲 苑

景継

友部 生國相模

初、小條氏とて、けりて故を去

大権現を列、濱松へ、ゆきます河

羽衣系、跡を部と、涉使して小條

氏とて、まのき、終、河へ、跡を部

へ、迹く終、白相、跡く、りて、よ、白

き、つるが、ま、へ、遂、へ、跡を部へ

と、つる、い、濱松へ、へ、跡を部へ

さい、へ、め、ま、りの、事と

大権現へ、へ、ま、へ、て、ま、れ、ら、福、見

せ、む、ま、後、小、田、系、と、ひ、奥、列、名

護、屋、岡、原、等、の、陣、よ、い、つ、れ、も、終、る

後に、父、西、系、と、又、ま、か、ん、へ、ま、つ、ら

相、去、へ、け、り、ま、つ、家

長、長、十、九、年、七、月、二、十、日、白、へ、終、と

歳、軍、十、七

景信

店右衛門

生國武藏

元和八年より

名徳院殿

家乃紋 左巴

いりま

高山

其先ハ相列士肥の存胤と傳ひ

●利家

将監

生國安藝

盛聰

主水正俊土佐下 生石海城

いづのな小早川隆宗一
戦場の先鋒とす
閉ヶ原沙陣のさだ盛聰
藤を和泉本多坂渡
とす

大権現とす
海路りゆふと
鉄炮百挺を
加

大権現とす
子力十騎鉄炮
と二百人の技
一

盛勝

生國山城

元和九年十月

將軍家とす

寛永元年二月より沖蒔と勤かん

利永りま

辛酉年 生國後河うぶ

寛永二年十二月

將軍家と御しつゝゆり

同十四年八月より沙蒔と勤ま

家乃紋左巴いん

某

冬河守

生國同家

● 某

英徳守

生國武家

三田

相馬小次郎が苗裔なり

細勝こがた

後河守ごがわのり 生國同家
 小糸津奥守こいづのおくのり 氏照うぢあき 一厨いちど 下野しも
 小山乃城守こやまのしろのり 守まも
 天正七年てんていしちねん 秋あき 存ぞん 小こ 守のり 京きやう 虎こ
 系勝けいしやう 相我さうが 小糸津こいづ 守のり 細勝こがた
 接つぎ 共とも 守のり 京きやう 虎こ
 丁ちやう 下した 細勝こがた 初はつ 死し 何なに 守のり 守のり 二歳にさい

守網しゆみ

左ひだり 共とも 束たば 生國同家
 父ちち 細勝こがた 初はつ 死し 何なに 氏照うぢあき 守網しゆみ 守のり
 大おほ 石いし 須す 津づ 守のり 又また 小山こやま 乃城のしろ 守のり
 守まも 心こころ
 小田系こだけい 没落ぼつらく のの 守のり
 大指おほさし 現げん 守のり 守のり 守のり 守のり 守のり 守のり 守のり 守のり 守のり
 守陣しゆじん 小糸津こいづ

寛永七年

名徳院殿

開ヶ原陣

元和元年

大坂陣

寛永元年

將軍家

守長

長吉

元和六年

名徳院殿

將軍家

守次

市郎

寛永七年

將軍家

家乃紋

槌馬之頭の左巴

● 實秀 じゆうしゆ

酒井 さうら

土肥乃流 とひのりゅう くら

生國を江 なまくにをえ 葛馬 かま 下 しも 宿領 しゆくりやう す

永禄年中 えいりくちゆう 江列 えりやう 鐘乃波 かねのな 乃城 のしろ 之 の 水 みづ

乃波 のな 乃城 のしろ 没落 ぼつらく の の 水 みづ

討死 うしろし

實の

きしりのせり

生國同前

鑑の波為城乃信浪人より後河

了りありく家武れ氏とを

酒井ふと称と

武田信玄了り行ふ波又二返あり

天正十年甲列没為乃信

大指現了り了り了り了り了り

安長十年七十二小く病死

法名道説

昌の

強義

生國後河

大指現了り了り了り了り了り

こり

名進院殿

將軍家了り了り了り了り

法名の志

実重

みしらのり

極女 生國回お

廣子ていさうといいといと家督かとくととき

大指現及とふい

名進院殿

將軍家しんししくくままつつ親

寛永二年病歿しんししくくままつつ親

了性りやう

実次

極女 生國武苑むら

元和九年じやうわ

將軍家しんししくくままつつ親

実正

みしや

強苑 生國回お

將軍家しんししくくままつつ親

象の紋

丸の目ま浮う

元もと櫓やぐら扇あふみ

